



リオデジャネイロ五輪で日本選手が大活躍した熱い夏が終わりました。4年後の東京五輪は是非、会場で応援したいと思っています。

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

◆キルトの秋

9月3日から10月11日まで、パッチワークキルトの展覧会「キルト浪漫 菊池登美子作品展」を開催します。小千谷市在住のキルト作家の魚沼での初の個展となります。

菊池さんは、小千谷市生まれで、新潟でアウンサーをしたあと、キルト作家に転身しました。現在は小千谷に帰り、大好きな赤毛のアンをモチーフにした潇洒なアトリエに住まいです。縮や紬など日本の古布を使い、富士山や秀吉、織部など日本的なテーマを表現した作品は、海外からも高く評価されています。数々の専門誌にも掲載され、インターナショナルキルトウィークでも賞を獲得しています。今回の展覧会では、過去の受賞作のほか、小千谷紬を使った新作など約40点の力



「キルト浪漫 菊池登美子作品展」は10月11日まで

作を展示いたします。

ところで、今秋は、十日町市（9月24日～10月2日）と塩沢・牧之通り（10月8日～16日）でも、キルト展がそれぞれ開催されます。さまざまなキルト作品を鑑賞できるいい機会ですので、魚沼と妻有の秋をキルト展巡りで楽しんでみたいかがでしょうか。

（広田かおり）

◆珈琲茶話Ⅲ

珈琲にはさまざまな淹れ方があるが、プロの抽出法が雑誌に出ていた。プロ中のプロが淹れた珈琲は美味しさに違いがないが、それを味わう機会はなかなか訪れそうにもない。

ふと思いつき、雑誌に出ていた方法を真似てドリッパパックで試してみることにした。まず、パックを開け、温めたカップの上に据える。ポットのお湯を細く静かに注ぐ。入れすぎないようにして蒸らす時間をおく。熱い水分が砕かれた豆の間にじわっとしみわたり、香りを含みながら耐えているのを感じる。ほどよい頃合いでポットのお湯を中心部から円を描くようなつもりで注ぐ。お湯はたくさん入れすぎないようにし、何回か繰り返し。今までは、ドボドボとパックの際ぎりぎりまで注いでいた。

恐る恐るカップを口に運び味わってみた。何と、今までよりはるかに薫り高い珈琲が仕上がっていた。だいぶ昔にミルで豆を挽いて飲んでいた記憶がよぎった。それは、珈琲が落ちて、ポットに溜まるときにできる琥珀色に輝く玉。

（岡西英孝）



ミュージアムショップでは、菊池登美子さん制作の素敵なキルト作品を販売します

◆ピンクッションを作りましょう

菊池登美子さんの作品展では、菊池さんの指導による「ピンクッションの制作」を開催します。菊池さんがカットして組み合わせた布を使って、キルトの基本を学べるワークシヨップです。制作時間は3時間くらいです。

開催日は9月18日（日）、22日（木・祝）、10月2日（日）、8日（土）の4回です。時間は9時30分から16時30分。毎回、定員は20名となります。裁縫道具をご持参ください。また、ワークシヨップには参加できないけど、ピンクッションを作ってみたいという方は、キットを販売します。この機会にキルトに挑戦してみませんか。

ミュージアムシヨップでは菊池登美子さんの作品を販売します。アンティークの布や、小千谷縮、小千谷紬などを使ったキルト作品が揃います。飾って楽しめる壁掛けや、暮らしの中で使いたいコースターやバッグなど、さまざまな楽しいものが並びます。

菊池登美子さんの世界を手にとってお楽しみください。

（佐藤良子）

◆謎の貝

今年の夏は雲一つない晴天の日が少なかつたような気がします。天気が良かったらどこ

かへ出かけたくなりませんが、今年は娘も忙しく休みも合わなかったため、あまり出かけることができませんでした。そんな夏休みでも、なんとか一回だけ海に行くことができました。はつきりしない天候と時間もなかったのですが、貴重な夏の思い出を作ることができました。

去年、おこぼれ的なサザエや岩ガキをゲットできたこともあり、今年も！と娘は大張り切り。早速、浮き輪と水中メガネを持って海へ。波が高く、浮き輪に掴まりながら潜る娘。あれ？！ない！カキがない！サザエもない！そうそう浅瀬にはいないことを思い知らされました。

手ぶらで帰るのも悔しいので、地元の方が美味しいと言っていた名前の知らない小さな巻貝、それをたくさんとって帰りました。磯の香りのする小さな貝。どなたか、あの貝の名前を教えてくださいませんか？

（山口加奈子）

◆カープの連想

広島カープが巨人相手に打ち勝って、優勝マジック20が点灯しました。赤ヘル旋風を巻き起こしてリーグ初優勝を遂げたのは、球団創設から26年目の1975年でした。監督は古葉竹識。歓喜に沸いた広島ファンにとっては、きつと長い時間だったでしょう。前回の優勝は山本浩二監督時代の91年です。それから、また四半世紀が経過しました。このまま突っ走って、25年ぶりに栄冠を手に行けるか。市民球団の行方が気になるところです。

カープといえば「鯉」ですが、魚沼の山あいを車で通ると、休耕田を利用した養鯉池が目につきます。秋を迎えると、錦鯉を仕入れに海外からも多くの愛好者が来日すると聞きました。日本の魅力は原宿や京都だけにあるのではなく、地方の大自然の中にも立派に息づいているのですね。

（高橋良一）

池田記念美術館 展覧会・イベント情報

■キルト浪漫—菊池登美子作品展—

◎1階企画展示室、2階展示室Ⅰ ◎期間：9月3日(土)～10月11日(火)

小千谷市にアトリエを構えるキルト作家・菊池登美子さんの個展。「世界のキルト作家 100 人展」や「日本のキルト 20 人展」に招かれ、「インターナショナルキルトウィーク展」などでも受賞経験がある実力派。日本の心を表現する作家として海外でも高く評価されています。

■ギャラリートーク 会期中の土・日曜日に開催します。

■ワークショップ「ピンクッションの制作」 ※参加料 500 円(別途入館料が必要となります)

9月18日(日)・22日(木・祝)、10月2日(日)・8日(土)

各回とも9:30～16:30(制作時間:約3時間)、先着順20人、裁縫道具持参

■野上公平遺作展—石と木の彫刻宇宙—

◎1階企画展示室、2階展示室Ⅰ ◎期間：10月15日(土)～11月8日(火)

昨年亡くなられた南魚沼市の彫刻家・野上公平氏(1934～2015)の遺作展。二科会会員で、1986年に特選受賞。後進の指導育成にも熱心で、南魚展や十日町石彫シンポジウムの開催に尽力。2000年に芸術文化振興で新潟県知事表彰、2006年には地域文化功労で文部科学大臣表彰を受賞するなど、南魚沼市の美術界発展に貢献された野上氏。今回の遺作展では、初期の木彫作品から晩年の石彫作品まで展示し、氏の業績を偲びます。

■はっけよい大相撲—木村浩之 日本画と人形展—(仮題)

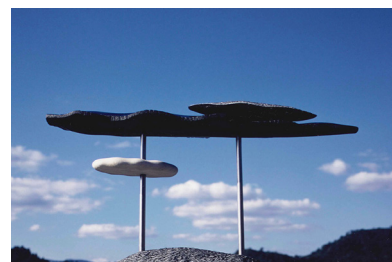
◎1階企画展示室、2階展示室Ⅰ ◎期間：11月12日(土)～12月25日(日)

相撲を創作の中心に据えた日本画と人形の作品で活躍する東京在住の若手画家・木村浩之氏の個展。力士たちの姿を力強く繊細に表現した作品は相撲の心技体に迫ります。

■9月の書道講座 9月17日(土)10時～ 講師：佐藤海雲氏 9月の課題：篆書



菊池登美子作品「織部色の風景」



野上公平作品「雲の行方 No.27」



イケビ発
スポーツと芸術を育む
コメのチカラ

この秋収穫の新米、南魚沼産コシヒカリの極上米(塩沢産)をお届けします。

池田記念美術館にて予約受付中! 初回発送分受付 9月30日(金)まで

スポーツ・文学・アートを愛する人たちの体と心、そして技術向上を食事の面からサポートします。

■おすすめポイント

- ①コシヒカリの中でも評価の高い魚沼産。さらに良質米と言われているのが、南魚沼市の旧塩沢町西山地区のコシヒカリです。その西山地区の農家で作った100%南魚沼産を産地直送します。
- ②旧塩沢町西山地区はコシヒカリの栽培に最適の環境にあります。豪雪地帯特有のミネラルを豊富に含んだ水、その水が育んだ粘りのある土壌、昼夜の寒暖差が良質な南魚沼産コシヒカリを作ります。
- ③稲の生育に必要な最小限の肥料と農薬のみを与えた特別栽培米。安心・安全をモットーに、契約農家が徹底した品質管理のもと丹精込めて作っています。良質で大変希少価値が高いお米です。
- ④粒の大きい2mm良質厳選米(5kg精米4,000円、10kg精米7,800円)と1.85mm良質米(5kg精米3,000円、10kg精米5,800円)の2種類をご用意しました(価格は税別)。

※詳細については美術館までお問い合わせください。また、ホームページでもご案内しております。

◎音楽情報

■池田音楽クラブ「音を楽しむ集い」 ※参加無料です

9月25日(日)11:30～ 月例音楽会(ピアノ、フルート)

14:00～ フォークソングの日

年間パスポートが大人気!

料金3,000円で発行日から1年間有効。初回申込特典①入館招待券3枚、②イケビカフェで利用できるコーヒーチケット2枚をプレゼントします。

池田記念美術館 南魚沼市浦佐5493-3 (八色の森公園内)
TEL 025-780-4080 / FAX 025-777-3815
【開館時間】9:00～17:00 (入館受付は16:30まで)
【入館料】一般 500円 高校生以下無料
【ホームページ】<http://www.ikedart.jp>

【9月の休館日】

※水曜日(7日、14日、21日、28日)
※9月1日(木)、2日(金)は展示替えのため休館となります。